

「100年先も必要とされる会社」へ

第97期 中間期

株主のみなさまへ

# 決算ご報告

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日



◎ 日本山村硝子株式会社  
<https://www.yamamura.co.jp/>

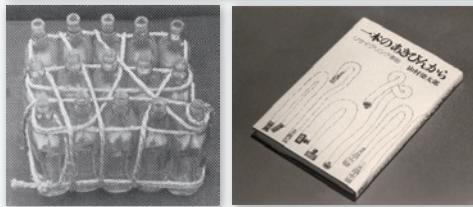
# 日本山村硝子111th HISTORY

1914年に創業され、ガラスびんからその歴史が始まりました。

戦後復興期、高度成長、グローバル展開、新素材開発…

変化する時代の中で「変わらぬ価値」を届け続けてきました。

111年のその先も、我々の歩みは時代とともに、これからも続きます。



中国に展誠(蘇州)  
塑料製品有限公司を  
設立し、その後は  
タイ、インドネシア、  
台湾、米国と  
グローバル展開を  
本格化。

山村商店として六甲山麓の  
珪砂の採掘販売を始める。

明治  
**1897**  
明治30年

大正  
**1914**  
大正3年

機械製壜の研究開発を進め、  
半人工機械を採用するなど  
**本格的にガラス製造**に関わる。

大正  
**1922**  
大正11年

昭和  
**1946**  
昭和21年

昭和  
**1955**  
昭和30年

昭和  
**1960**  
昭和35年

平成  
**1990**  
平成2年

平成  
**1991**  
平成3年

平成  
**1998**  
平成10年

平成  
**2004**  
平成16年



西宮市内において  
**山村製壜所**として創業。



111周年を迎えて、グループ一丸となって  
**「YAMAMURA ONE」**を掲げ、  
次の100年に向けて新たな一步を踏み出す。

令和  
**2021**  
令和3年

令和  
**2025**  
令和7年

**山村JR貨物きらベジステーション株式会社**を  
設立するなど、グループの成長を目指した  
活動を加速させていく。

その後、1960(昭和35)年に  
**プラスチック容器製造**を開始  
1973(昭和48)年にはいち早く  
**リサイクリング事業開始**。

フィリピンに  
**サンミゲル山村アジア社**を設立。  
**ニューガラス開発プラント**を  
建設するなど事業領域を拡大させていく。

日本硝子株式会社と合併し、  
**日本山村硝子株式会社**として発足。

「100年先も必要とされる会社」へ

111年目を新たなスタートの年と位置付けて、  
これまで先人たちが築いてきた信頼を受け継ぎながら、  
これからの日本山村硝子を牽引していくために、  
私たち12名の経営陣は想いを一つに取り組んでまいります。



次の100年も、みなさまとともに。

2025年4月、日本山村硝子は創業111周年を迎えました。1914年に創業され、ガラスびんからその歴史が始まりました。

戦後復興期、高度成長、グローバル展開、新素材開発...変化する時代の中で「変わらぬ価値」を届け続けてきました。これだけの歴史を積み重ねることができましたのも、株主・投資家のみなさまをはじめ、多くのステークホルダーのみなさまのご支援、ご協力の賜物でございます。心より御礼を申しあげます。

また、当社の先達の「社会に貢献したい。そのために挑戦する。」という強い思いが、どの時代も常に引き継がれてきたことによるものだと確信しています。この歴史の重みをしっかり感じてグループ一丸となって、これからも豊かな社会の実現に貢献し、夢のある魅力的な会社を目指してまいります。

「YAMAMURA ONE」は、私たちの新しいアイデンティティです。

創業111周年、この3つの「1」が並ぶ今、「YAMAMURA ONE」という新しいアイデンティティメッセージを発信しました。

「ONLY ONE」、「No.1」、「ONE TEAM」の3つの思いが込められており、関わるすべての人が1つになることで、より豊かな社会と地球環境をつくっていく。みんなで未来へ向かう、意志と決意を形にしたものです。

この先の飛躍と持続的な成長を目指し、「YAMAMURA ONE」をテーマに「経営陣が一つに」なり、「経営陣と従業員のみなさん」、さらには社外の各ステークホルダーのみなさまや地域社会とも「1つ」につながって豊かな社会を作りたいと思っています。

株主のみなさまには、引き続き一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申しあげます。

敬 具  
2025年12月



代表取締役  
社長執行役員

山村 昇

2026年3月期 中間期

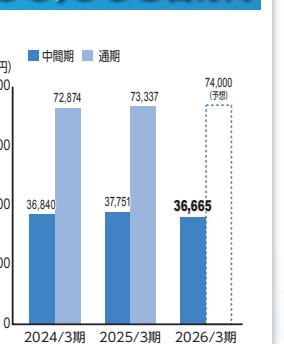
# 連 結 業 績 ダ イ ジ ェ スト

## 売 上 高

**36,665百万円**

プラスチック容器関連事業では国内における飲料用キャップの出荷の増加や中国での販売好調等、物流関連事業では新規業務の獲得増加や価格改定の実施等、ニューガラス関連事業では電子部品用ガラスや半導体向けガラスセラミックス製品等の出荷が堅調に推移し増収となりましたが、ガラスびん関連事業では国内ガラスびんの出荷量の減少等により減収となりました。これらの結果、売上高は36,665百万円(前年同中間期比2.9%減)となりました。

**36,665百万円**



## 営 業 利 益

**2,572百万円**

プラスチック容器関連事業では修繕費等の増加により減益となったものの、ガラスびん関連事業では販売単価の上昇や製びん関連設備の売上増加等により増益となりました。物流関連事業、ニューガラス関連事業ではコスト削減等の損益改善がありました。これらの結果、営業利益は2,572百万円(前年同中間期比6.9%増)となりました。

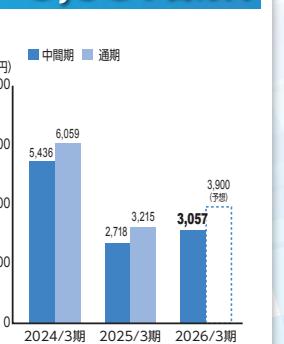


## 経 常 利 益

**3,057百万円**

海外関連会社の増益により持分法による投資利益は701百万円(前年同中間期比145.7%増)となり、経常利益は3,057百万円(前年同中間期比12.5%増)となりました。

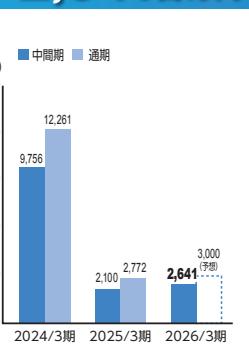
**3,057百万円**



## 親会社株主に帰属する中間純利益

**2,641百万円**

経常利益が増益となったことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は2,641百万円(前年同中間期比25.8%増)となりました。



## 株主還元の基本方針および当期の配当

当社は、2025年3月期から株主還元方針を強化、連結配当性向50%を目指し、1株当たり50円を下限に、利益成長に応じた継続的な配当額増加を目指す方針です。

当期(2026年3月期)の剰余金の配当につきましては、中間配当金を1株につき75円とし、期末配当金75円と合わせ、通期で150円とさせていただく予定です。

## 1株当たり配当額の推移

**150**

期末 75

中期 105

中期 50

中期 30

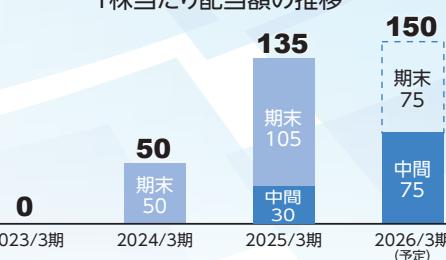
中期 0

中期 50

中期 75

中期 135

中期 150



## 大阪・関西万博

## 「TEAM EXPOパビリオン」参加 &amp; 「みんなで選ぶ!TEAM EXPO」W受賞

当社プラスチックカンパニーは、9月19日(金)～21日(日)、「2025年日本国際博覧会」(大阪・関西万博)「TEAM EXPO パビリオン」に参加しました。

プラスチックリサイクルプロジェクト「RIN～Recycle Innovation in the New Normal～」(※)についての展示を行い、3日間合計で約8,600名の方にご来場いただきました。共創チャレンジに参加していたチーム数は、2025年8月末時点で延べ2,441チーム、

共創パートナー登録団体数は2025年8月末時点で435団体に達しており、「みんなで選ぶ!TEAM EXPO」においては、その中から全9部門のうち、「イノベーティブ賞」および「みんなで選ぶ共創チャレンジ賞」の2部門をW受賞しました。



※「RIN～Recycle Innovation in the New Normal～」

びんtoびん構想に端を発し、使い終わったペットボトルキャップを再び新たなキャップや新たな価値へと生まれ変わらせることを中心とした、当社プラスチックカンパニーが推進するプラスチックリサイクルプロジェクトです。

CO<sub>2</sub>排出削減技術の開発～水素燃焼によるサステナブルなガラスびんの生産に成功～

当社と当社グループの株式会社山村製壜所は、日本エア・リキード合同会社と共に、溶解炉で使用する燃料の一部を水素に置き換えたガラスびんの生産に成功いたしました。燃料としての水素は、燃やしてもCO<sub>2</sub>が発生しないという利点があります。通常の方法で生産されたガラスびんと同等の品質が得られたことから、水素のインフラが整備されれば、ガラスびんがカーボンニュートラル実現に貢献できる容器となり得ることが示されました。山村グループはこれからも、「100年先も必要とされる会社」を目指し、すべての事業領域において、社会課題の解決に貢献してまいります。



## 高感度排ガスセンサー開発 米国スタートアップ「RedNOx Inc.」へ出資

当社は、ガスセンサー技術スタートアップ企業 RedNOx Inc. が実施する第三者割当増資の一部を引き受け、出資することを決定しました。

当社ニューガラスカンパニーは、エレクトロニクス、エネルギー関連等、幅広い産業分野に向けて接着・封着用ガラス材料を提供しています。

今回のRedNOx社への出資と並行して、当社が有する技術的知見を活用し、RedNOx社の開発を支援します。本出資および協業を通じ、当社にとって新規事業領域となるモビリティ・農業分野におけるノウハウの蓄積と、さらには次世代ガスセンサー市場での貢献を図ります。

当社グループは、既存事業の成長に加え、グローバルな環境課題の解決や次世代モビリティ・農業技術の発展に積極的に関与し、企業価値のさらなる向上を実現していきます。



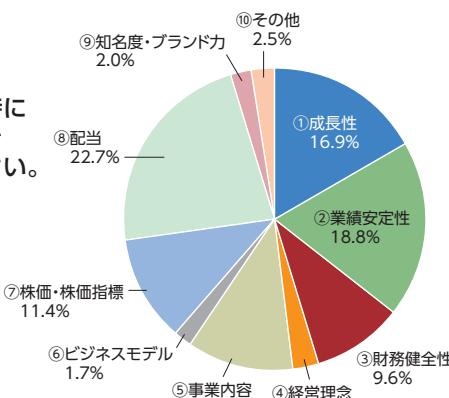
## 株主様アンケート結果のご報告

2025年3月末時点の株主様を対象に、ハガキによるアンケートを実施しましたところ、多くの株主様からご回答をいただきました。

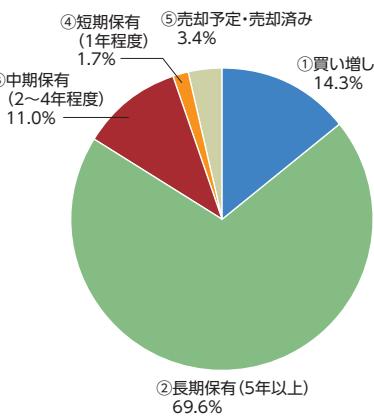
ご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果の一部をご報告させていただきます。



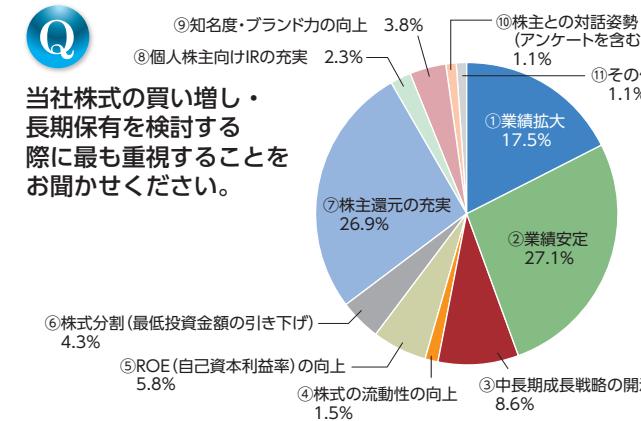
当社株式取得時に重視したことをお聞かせください。



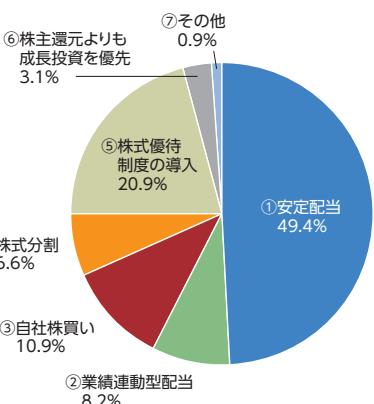
当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。



当社株式の買い増し・長期保有を検討する際に最も重視することをお聞かせください。



今後当社に最も望まれる株主還元策をお聞かせください。



- 成長性のある企業さんであると思い株を購入しました。これから先の成長、企業拡大を期待しております。
- 株価が割安だと思い購入しました。増配があり、また関西兵庫の会社を応援したいとの思いから、所有し続けたいと思っています。
- 日本のものづくりを元気にしてください。応援しています。
- もう少し買い増ししようと思ったがチャンスを逃した、長く付き合いたいので安定した業績拡大をお願いします。
- 事業の将来性を注視している。 ●成長とともに継続的な配当をお願いします。
- 株主還元はもちろん歓迎しますが、基本は業績の継続的な向上なので実現にご尽力願います。
- 株主優待があれば持ち続けます。配当金ありがとうございます。

他にも、要望・叱咤・激励のお言葉など、多くのご意見を頂戴いたしました。株主のみなさまからの貴重なご意見を参考にさせていただき、今後も一層の企業価値向上、ならびにIR活動の充実に注力してまいります。

引き続き、当社グループへのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申しあげます。

## 会社の概要

(2025年9月30日現在)

商 号	日本山村硝子株式会社(Nihon Yamamura Glass Co.,Ltd.)
本 社 所 在 地	関西本社 兵庫県尼崎市西向島町15-1 電話 06-4300-6000(代表)
東京本社	東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階 電話 03-3349-7200(代表)
創 剥 業	1914年4月5日
設 立	1941年12月11日
資 本 金	140億7,496万5,448円
従 業 員 数	767名
上場証券取引所	東京証券取引所(スタンダード市場)
会 計 監 察 人	有限責任あずさ監査法人

## 大株主の状況

(2025年9月30日現在)

株主名	所有株式数	所有株式比率
MURAKAMI TAKARU	990千株	9.26%
日本山村硝子取引先持株会	753	7.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口・801310)	477	4.46
株式会社三井住友銀行	425	3.97
INTERACTIVE BROKERS LLC	318	2.97
山村 幸治	305	2.85
日本山村硝子従業員持株会	265	2.48
株式会社三菱UFJ銀行	229	2.14
三菱UFJ信託銀行株式会社	227	2.13
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN(CASHPB)	208	1.95

(注)1.当社は、2025年9月30日現在、自己株式446千株を保有しておりますが、上記大株主は除いております。

2.所有株式比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式の状況

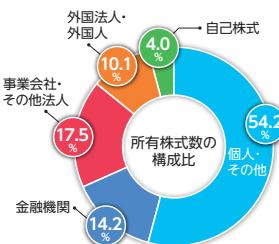
(2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	30,000千株
発行済株式の総数	11,145千株
株主数	9,350名
単元株式数	100株

## 所有者別株式分布状況

(2025年9月30日現在)

	株主数	所有株式数
個人・その他	9,014名	6,036千株
金融機関	15	1,586
事業会社・その他法人	251	1,949
外国法人・外国人	69	1,125
自己株式	1	446
合計	9,350名	11,145千株



## 役員

(2025年9月30日現在)

### 取締役(監査等委員である取締役を除く。)

山村 幸治

取締役会長  
取締役会議長

山村 昇

取締役  
代表取締役  
社長執行役員

小林 史吉

環境室、コーポレート本部およびプラスチックカンパニー管掌

明神 裕

ガラスびんカンパニーおよびエンジニアリングカンパニー管掌

田口 智之

研究開発センター長およびニューガラスカンパニー管掌

### 監査等委員である取締役

佐貫 正義

高坂 佳郁子

弁護士(独立役員)

泉 豊禄

ハクスイテック株式会社代表取締役社長(独立役員)

近谷 逸郎

弁護士(独立役員)

### 執行役員

副島 正義

ガラスびんカンパニー社長

金原 正晃

コーポレート本部長

木村 周二

植物部業部管掌および木材部業部管掌ラベジステーション株式会社代表取締役社長

宮城 篤志

プラスマックカンパニー社長

山下 哲

エンジニアリングカンパニー社長

佐藤 敬

サンミケル山村ハッカージング社取締役副社長

## 買取・買増制度をご利用ください



## 株主メモ

事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで
期 初 余 割 当 金 受 領 株 主 確 定 日	3月31日
中 間 余 割 当 金 受 領 株 主 確 定 日	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名簿 管理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料) (土・日・祝日等を除く午前9時~午後5時) <a href="https://www.tr.mufg.jp/daikou/">https://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.yamamura.co.jp/ir/notice.html">https://www.yamamura.co.jp/ir/notice.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他の各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で行ってください。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではありません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。  
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株式に関するお手続きについて

### ○特別口座に記録された株式

#### お手続き、ご照会等の内容

#### お問合せ先

○特別口座から一般口座への振替請求	特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関
○単元未満株式の買取(買増)請求	
○住所・氏名等のご変更	
○特別口座の残高照会	
○配当金の受領方法の指定(※)	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会	株 主 名 簿 管 理 人
○支払期間経過後の配当金に関するご照会	
○株式事務に関する一般的なお問合せ	

【手続き書類のご請求方法】

○インターネットによるダウンロード

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

(※)特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

### ○証券会社等の口座に記録された株式

#### お手続き、ご照会等の内容

#### お問合せ先

○郵送物等の発送と返戻に関するご照会	三 重 UFJ 信 托 銀 行 株 式 会 社 大 阪 証 券 代 行 部 〒541-8502 大 阪 市 中 央 区 伏 見 町 三 丁 目 6 番 3 号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
○支払期間経過後の配当金に関するご照会	
○株式事務に関する一般的なお問合せ	

○上記以外のお手続き、ご照会等

口座を開設されている証券会社等にお問合せください。